

— あさひ燦々 —

理念 信頼される医療、誇れる医学

第26号(2018.1月号)



新病院への期待：患者さんのみならず、職員にも選ばれる病院へ

独立行政法人 労働者健康安全機構 旭労災病院

病院長 木村 玄次郎

地域の皆様方の御支援の賜物で、新病院建設が始まりました。これまでの病院は、近づいても建物の姿が見え難い欠点がありました。しかし、新病院では工事が始まると直後から賑やかで、遠くからでも新病院を見て取ることでき、近隣の住民の皆様からの期待が高まっています。ただ、工事中は騒音が響き、駐車場が不足ぎみで御迷惑とご不便をお掛けすることになり申し訳なく存じます。

新病院では念願の集中治療室(ICU)を設置する予定です。重症患者さんを手厚く治療するばかりか、救急搬送患者さんや術後患者さん、それにカテーテル治療後の患者さんなどをICUに収容すれば、安全性が向上し病院機能が飛躍的に高まります。ICUが可動し、その他の周辺条件が整えば、更に高い病院の格である地域医療支援病院を目指し、公的病院として地域の病院や開業医の先生方とより密な

連携を構築し、地域全体の医療レベルを高めて行くことができばと考えています。

昨年、3回目となる日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し高得点で合格しました。医療安全や感染対策のみならず、インフォームドコンセント（患者さんからの同意）のいただき方などについても時代と共に進歩・変化する新しい考え方へとバージョンアップできたことは、有意義であったと確信しています。特に、“人生の最終段階における医療”の決定プロセスに関するガイドラインについては、時代と共に変貌して行くものと感じました。生前に自分の終末期のあり方を決定しておく“living will”と云う考え方も芽生えています。このように医療のあり方は、今後大きく変化する予感があります。

さて、この病院機能評価受審という一大イベントを通して、旭労災病院の職員のレベルの高さと団結力の強さを再確認することができ喜んでいきます。当院の大きな特徴は、57年を超える歴史があり、古いけれども大事に磨き込んで使われ輝いていることです。病院まつりでも感じていただいたように、温か味に溢れ、「看護師さんは親切で、医師も丁寧に分かりやすく説明してくれる」とのお褒めの言葉をいただいています。これまで職員には、ややもすると何となく“古くて小さい”病院との意識がありました。実際には、我々の病院に一步でも足を踏み入れ隅々まで観察していただくと、古いけれども大事に磨き込んで使われ、輝いている姿に驚かれるはずです。職員一丸となり、歴史と共に価値を高めるべく日々励んでおります。2019年春には新病院をオープンすべく現在、鋭意準備中です。建設が進む中、

病院周辺の整備については、市民の皆様の御意見を集約して、尾張旭市が責任を持って速やかに決定していただきたいと思います。長期的には、病院に隣接する市の遊休地を災害時の避難場所とし、我々の病院が災害拠点病院的な役割を果たせる計画が重要ではないかと考えます。病児保育施設も病院と連結する形で設置できれば市の大きな財産になります。病院周辺のアクセス整備も将来に渉る重要な課題と考えます。病院は社会や市民生活にとって最も重要な基本的インフラであり、病院建設は市を活性化させる起爆剤でもあるため、“街起こし”に直結しています。是非、このタイミングを逃すことなく市民の皆様と一緒に議論を高め具体化していただければと期待します。幸い、来年（2019年）5月には、尾張旭市の森林公園にて全国植樹祭が天皇・皇后両陛下をお迎えして盛大に開催されます。丁度、新病院のグランド・オープンとほぼ同時期です。尾張旭市や名古屋市守山区は、人口が未だ増加している全国でも珍しい地域です。是非、この地域と新病院が揃って発展することを期待します。

地域に密着しながら、世界を見据え社会に貢献することこそ独立行政法人としての使命です。今後共、地域密着型の旭労災病院に対して地域の皆様から暖かい御支援をいただきますよう本年もどうか宜しくお願い申し上げます。



糖尿病のトピック、血糖変動を可視化できる CGM について

糖尿病内分泌内科主任部長
小川 浩平

持続グルコース測定（CGM）は、皮下組織に専用のセンサーを装着し、連続的にグルコース濃度の変動をみる測定法です。1日に数回の血糖自己測定（SMBG）に比べ、測定回数が格段に多く、血糖値の日内変動を詳しく知ることができます。夜間睡眠中や多忙な仕事中等、測定困難な時間帯の血糖値が分かりにくいという SMBG の課題を解決するために CGM システムが開発されました。

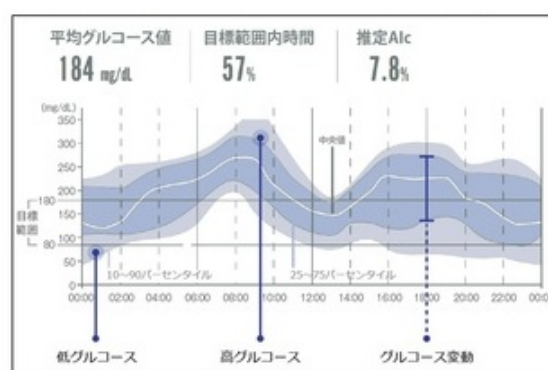
CGM の中で特に注目されているのが、アボット社の FreeStyle リブレです。2016 年 10 月 8 日に NHK スペシャルで放映された「血糖値スパイクが危ない」で使用され、生放送でタレントを測定していました。

上腕に 500 円玉大のセンサーを貼付し、リーダーでスキャンすることで、いつでもどこでも、服の上からでも簡単にグルコース値が測定できます。センサーは 14 日間連続使用でき、防水機能もあり入浴などに差し支えありません。



FreeStyle リブレで測定されたデータを専用ソフトウェアで読み込むと、グルコース値だけでなく、その変動をトレンドやパターンにして

表示する Ambulatory Glucose Profile (AGP) と呼ばれるレポートが作られます。AGP は血糖日内変動パターンの把握に非常に役立ち、インスリンなど薬物療法のレジメの根拠になります。



一方、メドトロニック社のガーディアンコネクトは、スマートフォンを使って患者の血糖値を家族や友人と共有することができる CGM です。これは小児 1 型糖尿病に最適で、母親のスマートフォンに子供の血糖異常アラートを知らせることができます。さらには患者と医師の間で使用して遠隔診療を行うことも可能となります。

このように CGM がどんどん進化しており、血糖コントロールの強力な手段として期待されています。平成 30 年度の診療報酬改定できちんとした保険適応がつかだろうと予想されています。CGM の普及により糖尿病治療がどう進化するか、私は想像するだけでワクワクしてしまいます。

訪問看護の活動紹介について

看護部（訪問看護外来）

【部署紹介】

はじめまして。旭労災病院看護部の訪問看護師です。

当院の訪問看護は、現在担当看護師3名で、毎日1名体制で在宅訪問しています。地域の訪問看護ステーションと異なり、原則当院通院中の患者さんが対象となっており、緊急体制はとっておりません。訪問看護は医師の指示のもとで訪問し、訪問先は病院から車で30分圏内です。

【保険】

保険は介護保険または医療保険のどちらかの利用となります。

医療保険を利用できる方は、『厚生労働大臣が定める疾病等』で定められている20疾患の診断がついている方です。介護保険を利用する方は、介護申請がされており介護度が出ている方、もしくはこれから介護申請をして認定されそうな方対象です。この2種類の保険は医療保険が優先となりますので、自分でどちらの保険を使うかというのは決められません。

【訪問時間と料金】

介護保険では訪問時間によって費用が変わります。旭労災病院の訪問看護の場合は、1割負担の方で30分：392円、30分～60分：567円、60分～90分：835円となっています。2割負担、3割負担の方はお問い合わせください。

医療保険では一律、1割負担の方：555円、2割負担の方は1110円、3割負担の方：1665円と交通費1回の訪問につき540円となっています。

【訪問内容】

- ・病状観察
- ・医師の指示による医療行為
- ・リハビリテーション
- ・入浴、清拭、洗髪、食事、排泄等の

各種介助

- ・在宅医療に関するアドバイスや相談
- ・退院前、退院後の在宅でのアドバイス

【訪問看護で感じる事】

訪問看護を知らなかった方が利用する事になり、在宅酸素療法を始めました。入院中から病棟で指導は受けていましたが、退院後に酸素の機械をどこに置くかなど、家の中での環境の確認を行うため、退院前に患者さんに自宅に外出してもらい、同時に訪問看護師も在宅療養環境を確認しに行きました。「ここに酸素の機械を置こうと思っています。」「どのくらい火が出るものから離れていればいいですか？」などいろいろな質問がありました。そして家族から帰り際に「家に来てくれて本当に安心しました。」と言われました。住み慣れた家で今までと同じような生活を送ることができるお手伝いができればと思っています。

「訪問看護は何してくれるのか？」「こんなことで訪問看護を利用しているのか？」「訪問看護の存在を知らなかった。」と言う声を耳にします。介護保険自体どう利用していいのかわからない方が多いようです。わからないことがありましたら、まずは声をかけて下さい。

【お申込み・問い合わせ】

当院通院中の方は主治医へ、入院中の方は主治医又は各病棟師長へお問い合わせください。

*また、担当ケアマネジャーがいらっしゃる方は、ケアマネジャーを通して、問い合わせ頂くこともできます。



教えてドクターQ&A

【質問】

寒くなるとよく子供が吐いたり・下痢をしたりするのですが…

【回答】

寒くなってくると胃腸カゼが流行ります。原因はノロとかロタなどのウイルス性感染症であることが多く、敵がウイルスであるかぎり、罹ってしまったら脱水をおこさないように症状が治まるまでうまくやり過ごすしかありません。最近では脱水を起こさないための「経口補水療法」が世界的に推奨されています。これは点滴の代わりに口から水分補給する治療法で、嘔吐や下痢で失われた水分と塩分を速やかに補えるような適切な割合が調節された飲み物です。小児急性胃腸炎診療ガイドラインによれば、あちこちの薬局や医療機関の売店などでも売っている「OS-1」というのと、医薬品のソリターT 配合顆粒2号というのが推奨されています。飲む量は5分毎に体重10kgまでが10～20ml、15kgまでで15～30ml、20kgまでで20～40ml程度(5mlはペットボトルのキャップもしくはティースプーン1杯)、つまり体重と同等もしくは倍量を5分毎に頻回の飲ませるのがコツのようです。OS-1はゼリー状のものもあり、むせることなく飲ませることもできます。ただしそれでも24時間たっても嘔吐が続く、大量の水様便が1日5回以上あるなど症状の改善がない場合、おしっこの量が少ない場合などは医療機関受診が必要です。経口補水療法でうまく切り抜けられたら、ミルクや食事はすぐに開始しても大丈夫です。母乳は積極的に継続していただき、ミルクは薄める必要はありません。食事は高脂肪や糖分の多いものは避けたほうがよいようです。

(小児科部長 安藤郁子)



～クリスマスコンサートの開催について～

平成29年12月19日(火)に旭労災病院医事課前ホールにて、クリスマスコンサートが開催されました。このコンサートは尾張旭市近隣のボランティアで構成された「ピッコロマンドリーノ」の皆さんによるマンドリンの演奏会で、毎年この時期に開催しているものです。

今年も約1時間にわたり、総勢約20名の皆さんによる演奏に耳を傾けたり、一緒に歌ったりしながらクリスマスムードを存分に味わうことができました。



～近隣施設での症例検討会

開催について～

平成10月6日(金)、20日(金)に「ユートピア第2つくも」にて症例検討会を開催しました。当院の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が実際に現場に行き、施設職員の方がどのようなことで困っているかを聞きながら摂食の状況やシーティング、ポジショニングを確認し、対応策を検討したうえで症例検討会に望みました。当日は施設から約70名の職員の方に参加していただき、積極的な質問もあり、活発な症例検討会となりました。症例検討会後のアンケートでは今後のケアの参考となる意見や、また開催してほしいとの意見も多く、今後も地域の誤嚥性肺炎のケア向上の為に継続していきたいと改めて思いました。

近隣で誤嚥性肺炎に関する研修会、症例検討会の開催を希望される施設がございましたら当院中央リハビリテーション部までお気軽にご連絡下さい。